



学園だより



2月13日（木）令和2年富山県准看護師試験が富山県農協会館で実施されました。合格発表は3月9日（月）午前10時です。

2月16日（日）第109回看護師国家試験が北陸大学で実施されました。合格発表は3月19日（木）14時です。

全員の合格を願っています。



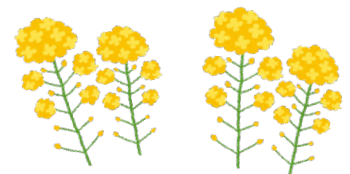
准看護学科2年生は、1月に臨床看護概論Ⅲの講義の中で「臨地実習を終えて」のテーマで、臨地実習で学んだことや自分の看護に対する考えをまとめました。以下に掲載します。

臨地実習を終えて ―患者の健康とは―

准看護学科2年 宮崎 直子

私が病院実習で最も印象に残っているのは、回復期病棟で受け持った90歳の女性である。第二腰椎圧迫骨折のため入院し、外来通院で治療が可能になることが目的である。A氏の日常生活動作は、受け持ちを通し日々回復し、リハビリパンツを使用してのトイレ排泄が可能となった。また、歩行訓練での歩き方もスムーズになってきているのが明確で、自力で可能な動作も増えていった。退院に向けて身体機能が回復しているのは明らかであったが、ため息をつかれることが多かった。A氏は退院後、施設に入所となるが、入院先がなかなか決まらず悩んでいた。そして何より入院前に一緒に暮らしていた弟夫婦との生活を望んでいる様子であった。「本当は家に帰りたい。近所に友達もいるから。でも、絶対に言わないで。」という発言から、私は気分転換を目的とした、ちぎり絵の援助を立案した。夏の暑い時期で、よく額から汗が流れていたため、無地のうちわにちぎり絵を施し、病室で使ってもらおうと考えたからだ。また、料理好きであった患者への話題提供に繋げようと、色紙の代わりに食料品のチラシを使用し、料理や季節の果物について会話を楽しみながら、穏やかな時間を過ごせるよう心掛けた。そんな中、A氏が「私は社会からこぼれ落ちた存在である。社会にとって何の役にも立たない、無駄なお金を使わせている私は、いないほうがいい。」と突然心の思いを話された。私はA氏の本心を知り、高齢になって生活する場所を、探さなくてはならない不安を想像した。そして、返答できず、手を握ることしかできなかった。その後、A氏と作成したうちわをA氏に渡すと、とても喜んで「私はあなたの心をもらったの。ありがとう。」と目を潤ませながら笑顔で言われた。

この経験から私は、患者は身体機能が回復すれば元の生活に戻れるわけではないと学んだ。入院したことにより、大きく生活や人生が変わってくる。退院後の生活が、必ずしも患者が望むものとは限らない。今回のA氏との関りで、患者は入院することにより、様々な不安や思いを抱えるのだと知った。私はあの時、何と云ってあげればよかったのだろうか、今も考え続けている。手を握りA氏の思いを傾聴し、共感しながら関り続ける事しかできなかった。しかし、その関りで築いた信頼関係があったから、うちわを受け取った時の言葉を、得ることができたのだと思う。健康とは、身体だけでなく、精神的、社会的にも良い状態であるということ、この患者を通して知ることができた。



看護学科3学年は、看護の統合と実践Ⅳの科目で演習を行いました。今までの実習で経験していない看護技術を看護技術項目表より抽出して、習得できることを目標としています。厚生労働省より看護学校における看護技術の卒業時の到達度が示されており、在学中に多くの技術を経験し、見学を含め未経験の技術がないように取り組んでいます。学生は死後の処置、創傷の処置、無菌操作、包帯法、急変時の対応、輸血などの技術を取り上げていました。テキストや様々な参考文献を用いて調べなおし、練習を行い演習に臨みました。

実施後は他の学生から「自分だったらこうする」など、建設的な意見交換が行われ、処置の優先順位の判断や基本的な知識・技術の確認を共有することが出来ていました。また、実施中の態度についても着目できており、目線を落とし、声掛けする姿勢や患者に配慮した言葉の選択について具体的に意見があり、知識・技術・態度をもって看護技術であることを意識化できていたと思います。



エンゼルケア



上腕への筋肉注射

《学校行事》

- 3 / 1 (日) 一般(二次)入学試験
- 3 / 2 (月) 一般(二次)入学試験合格発表
- 3 / 5 (木) 卒業式・特別講演(国際会議場)
- 3 / 6 (金) 進級会議
- 3 / 9 (月) 富山県准看護師試験合格発表
- 3 / 11 (水) 一般(二次)入学試験入学手続き締め切り
- 3 / 19 (木) 終業式
看護師国家試験合格発表
- 3 / 24 (火) 准(看)新入生ガイダンス
- 4 / 2 (木) 始業式
- 4 / 9 (木) 入学式(市民プラザ)